

関東支部平成20年度現地検討会報告 「群馬県甘楽町の内久保地すべり」

日本地すべり学会関東支部

平成19年9月の台風9号により群馬県甘楽町秋畑内久保では、全長約440m、幅約130m、すべり面深度約10mに達する大規模な地すべりが発生した。関東支部では昨年度、地すべり発生直後に現地検討会を実施し、地すべり機構、対策工のあり方等を議論した。ボーリング結果、観測データが得られた段階で再度現地にて討論することを目的として、本年度再び現地検討会を実施した。被災直後に想定した地すべり深度は正しかったのか、想定ブロック区分は妥当だったのか等を当時のデータとその後得られたデータを比較検討す

ることにより、発生直後の調査観測方針、緊急対策工や恒久対策のあり方等の深い議論を行った。現地での議論の続きは、群馬県富岡環境森林事務所に場所を移して行われ、地すべり監視方法や現況の安定性や恒久対策等について活発な意見交換ができた。

本検討会を開催するに際してご尽力いただいた群馬県および現地の説明をしていただいたパシフィックコンサルタンツ株式会社の皆様に御礼を申し上げる。



写真1 地すべり地全景



写真2 頭部付近の路面段差滑落崖付近



写真3 側方崖から上方を望む



写真4 現地での討論



写真5 意見交換会でのコア確認



写真6 意見交換会の状況